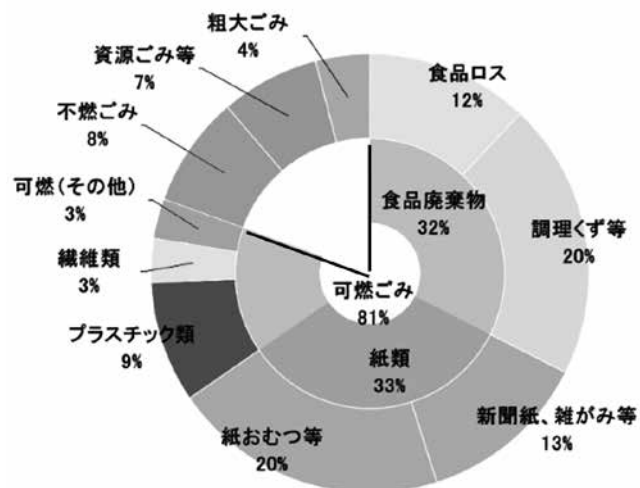


(2) ごみ減量に向けた「3きり」「分別」の推進 —————【循環社会推進課】

◆「やってみよう！いざ！ごみ減量チャレンジ」について

本県では、年間約 24 万トン、1 人 1 日あたり 878g のごみを排出しています。1 人 1 日あたりのごみ排出量の全国平均は 847g で、県民 1 人あたりが全国平均より 1 日に 31g、1 年間で 11kg 以上のごみを多く出していることになります。また、家庭から出るごみが全国平均より多いことがわかっています。※令和 4 年度環境省一般廃棄物処理実態調査結果を参考にしています。



種類別排出状況 (福井県廃棄物処理計画より)

ことから、県では、「やってみよう！いざ！ごみ減量チャレンジ」と銘打ち、県独自のキャラクターとともに食品廃棄物を減らすための「3きり（生ごみの水切り、料理の食べきり、食材の使いきり）」、紙やプラスチック類の「分別」の実践を、テレビ CM、新聞・雑誌広告、WEB・SNS 広告等、多くのマスメディアを活用しながら県民に広く啓発しています。

新聞や雑誌では、新聞紙を使った雑がみ回収袋の作り方、ペットボトルを使った生ごみの水切り、令和 6 年 10 月の食品ロス削減月間には野菜の皮など食材を有効に使う食べきりレシピを写真付きで紹介しました。また、夏休みの自由研究の題材としてホームページに掲載するなど、時季に合わせた「やってみたくなる」コンテンツを紹介することで、「3きり」「分別」を実践するきっかけづくりをしています。

ごみの減量には一人ひとりの心がけが大切です。3つの「きり」と紙やプラスチック類の正しい分別を毎日の習慣にすることで、家庭のごみは減らすことができます。

ごみ処理には、収集運搬、焼却、埋立などに多額の費用がかかるだけでなく、多くのエネルギーを使い二酸化炭素（CO₂）を排出します。ごみの減量は、家庭においてごみ出しが楽になったりごみ袋の節約になったりするほか、環境負荷の軽減によりカーボンニュートラルの実現に向けても効果があります。

本県のごみには、食品ロスや調理くずなどの食品廃棄物が全体の 3 割、新聞・雑がみなどのリサイクル可能な紙類が 1 割を占めています。また、可燃ごみの中にプラスチック類が含まれており、全体の 1 割を占めています。

これらのごみは生活の中のひと工夫で減量できること



ごみ減量チャレンジちらし

(3) わくわくもったいないフェスタ 2024 —————【循環社会推進課】

◆総合リユースイベント「わくわくもったいないフェスタ 2024」について

福井県と環境ふくい推進協議会では、展示や体験を通して、県民に「ものを大切に作る心」を育む機会を提供するため、企業・団体の皆様の協力を得て、家族で楽しめるリユースの祭典「わくわくもったいないフェスタ 2024」を平成 29 年度から開催しています。5 回目となる今回は、令和 6 年 11 月 4 日（月・振休）に福井駅西口ハピテラスにおいて開催し、当日は 1,800 人超の方に来場いただきました。



会場の様子

◆出展ブース

会場では、12か所の体験・展示等のブースを設けました。

① 大古本市

6店の書店・団体が出店し、絵本・児童書・文庫本・参考書・雑誌など多彩な本を販売し、およそ880冊の本が、新しい持ち主のもとに渡りました。

② おもちゃ病院

おもちゃドクターが、壊れたおもちゃを修理するふくいおもちゃ病院を実施しました。

30点以上のおもちゃの修理を無料で行い、子どもたちを笑顔にするとともに、ものを大事に長く使うことについて、親子で考える機会を創出しました。

③ 洋服・ぬいぐるみお直し隊養成講座

令和元年度から行っている洋服やぬいぐるみの補修を行うボランティア「洋服・ぬいぐるみお直し隊」の養成講座を、令和6年度は総合リユースイベント内で実施しました。



おもちゃ病院の様子



洋服・ぬいぐるみお直し隊養成講座の様子

④ フードドライブ

福井県フードバンク連絡会によるフードドライブを実施しました。

来場者から計55点の寄附をいただき、後日、子ども食堂等へ提供しました。

⑤ ごみ減量グッズ制作体験

新聞紙を使った雑がみ回収袋や、ペットボトルを使った生ごみの水切りアイテムを作るコーナーを設置しました。思い思いの絵を描いたり色付けをしたりして、自分だけのオリジナル雑がみ回収袋や水切りアイテムを作りました。

「やってみよう！いざ！ごみ減量チャレンジ」、「おいしいふくい食べきり運動」のパネル展示も合わせて行いました。

⑥ 雑がみクイズ

雑がみの分別をクイズ形式にすることで、楽しみながら雑がみについて学べるブースを設置しました。答えをじっくり考え、話し合う様子などが見られました。

⑦ 海岸ごみについて考えよう

海岸ごみに関するアンケートと、海岸漂着物に関するパネル展示を実施しました。住みよい町づくりやプラスチックごみ削減について考えるきっかけを創出しました。

その他、小さくなった子ども靴の下取りや、スマートフォンアプリ「ふく eco」を使って気軽に楽しみながら身近な省エネに取り組む「デコ活ふくい」の紹介、エシカル消費の紹介、マイボトルの利用を啓発するための試飲ブースを設置しました。キッチンカーの出店もあり、多くの人で賑わいました。